

事例  
14

あの企業はこう使っている!

センコー産業 株式会社  
事例に学ぶIT・IoT導入

多肥モデルハウス



香川県を中心に地域密着型企業として注文住宅の建築・分譲住宅の建築販売や不動産の売買・仲介を行っています。

**SENKO** 創るたのしさと暮らすよろこびを。  
センコー産業 株式会社

〒761-0101  
香川県高松市春日町1642-4  
TEL 087-844-8020  
HP <https://www.senkosangyo.co.jp/>

なんとなく「便利になりそう」とは思うものの「うちの会社で、どう使ったらいいかイメージが湧かない...」。  
そんな皆さま必見のコラムです。

高松のIT・IoT先進企業（リーディングカンパニー）が、IT・IoTをどう活用しているかを毎月連載で紹介いたします。

第14弾は、センコー産業株式会社。代表取締役社長の友國裕典さんにお話を伺いました。

工程数・関係者が多いからこそ  
業務のデジタル化が効果を発揮

協力会社との連携が  
欠かせない建築業界

建築工事は、総合的な管理・監督を行う元請け会社のもと、大工や左官、電気工事...いくつもの専門工事業者によって作業が進められます。作業図面の共有や進捗状況の確認、工程の引き継ぎなど、あらゆる場面で情報共有が欠かせませんが、業界全体として紙による情報管理や口頭での伝達などアナログなやりとりが主流です。

30業者以上のアナログな  
情報共有でトラブルも

工事の元請けを担うセンコー産業でも2年前までは、電話やFAX、紙の図面などを使ったアナログな情報共有を行っていました。「1つの仕事に関わるのは30業者以上。情報共有のツールが業者ごとに異なる上に、伝えるタイミングもバラバラになり『言った、言わない』のトラブルが頻繁に発生していました」と友國社長。また1日何十件もの電話・FAX対応に加え、変更が生じるたびに紙の指

示書を修正しなければならぬなど現場管理者の業務負担はかなり重く、本来の業務に集中できない状況。そこで「ITを活用して、煩雑な現場コミュニケーションを円滑化することで生産性向上を目指しました」。

施工管理アプリで  
業務効率&品質アップ

導入したのは、各種データ(図面、写真、資料)の共有、チャット、工程表作成など、これまでアナログな手法で行ってきた作業をクラウド上で一元管理できる業界に特化した施工管理アプリ。1つの現場に関わる全ての人リアルタイムで情報共有でき、業務の効率化はもちろんのこと、一つひとつの仕事の質が上がり、品質向上にもつながりました。また導入から間もなく、コロナ禍やウッドショックによる資材不足、価格高騰、工期の乱れなど業界全体が厳しい状況に陥った際も、施工管理アプリを活用した迅速かつ正確な情報共有によって、混乱を最小限に抑えることができました。

図解  
情報共有のインフラ整備で建築現場を  
一元管理。業務効率化を図る。

